

ン、即ち富田委員長の開會の辭兼口上にて、幕を落す——オツトそんなものは無い——と、先第一に佐久間大將が福引と稱して紙片を配る、番號順に読んで見ると、それは今夜餘興のプログラムだ、中には警句が澤山ある『ハイカラ髻は佐藤さん、次では角田、小島さん』眼鏡の光るは菊地さん、加藤さんには天城さん、好男子では桑田さん』などで、餘興の報告は、奥村長身君の『ハアモニカ』、平野君の『うかれ節』角田君の『薩摩琵琶』、水谷君の『戦争談』、桑田君の『手品』、大下先生他に一人の『田舎女學生』、小林君の『踊り』、其他何でも澤山あつた。さて段々に進行する、委員長の口上は極めて輕妙、よく人を笑はせた、角田君の『俊寛』はよい出来で、繪があゝの位ひ旨く畫けたらとは誰かの蔭口、少し座が沈んだ時、委員長の命で、大下先生の『田舎女學生』が出た、先生は實際の寫生だといふて、何でも『昨夕四五人連れて學校の近處を歩いてゐた時、向ふから疲れた田舎女學生の一群が來た、バタリ行遇ふと』と、先生がこゝ迄話して、急に隣りの竹内女史と差向ひになつた、スルト女史はオーレオリンのやうな聲を出して『アノ一寸伺ひますが』と來た、こゝでイワヤのアナグラといふ處へゆく道をきくのだから先生が『頼朝の墓は直きそ、だ』と答へたら。大勢の聲で『アレ嬉しいは、近くつて！』と叫んだので大團圓、何事か始まるのかと實は一同少々面くらひの體、さてまた段々進んで來て、小林君の踊りとなる『大夫身仕度の間』とあつて、桑田君の手品、『花をさかせて御覽に入れると』いふて、紙を破つて御自分のアノ

大きな鼻を出したのには一同失笑、そのうち口上に連れて出て來たものを見ると、頭には大きな衣服の帽を冠り、便々たる腹は一つの顔と早變りして、目鼻立にこやかに、腰を垂れ足を曲げて、覺束なき手にサイハラヒをうちふり、何やら歌ふてヨロ／＼踊り出す工合、おかしい共おかしい共、抱腹絶倒、暫時は拍子の音で耳がいたくなつた、片桐君は『都々逸、祭文、浪花節、淨瑠璃、葉うたに影芝居、詩吟、チヨボクレ何でも來い』なんて、エライ元氣だつたが、今夜は甘いもの、食ひ過ぎ、シルコカタルが起つたので、一切此次迄御預けとの事で、食つたり笑つたり二時間は夢の間に過ぎたので、委員長の失策談を最後として目出度會を閉じた。某甲の見聞報告はまづザツト如斯に御座候也。

飯山圖畫展覽會記事

下水内郡教育品展覽會開催を機として九月廿七日より三日間圖畫展覽會を飯山小學校尋常部に開催せり出品畫の主なるものは丸山、大下、大橋諸氏の水彩畫四十六點川端、荒木、寺崎、下村諸氏の日本畫及び美術學校卒業生製作十八點日本水彩畫會本部作品二十七點同長野支部並に飯山素絢會々員の作品百二十一點美術學校圖畫師範科生徒油繪水彩畫三十三點縣下諸學校生徒の成績四百十一點外國圖畫成績三百餘點等にして三日間に於ける入場者は總計六千四百十余人以て其盛況を知るを得べし。

(飯山支部委員)